（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	るふれ宮城野			
○保護者評価実施期間	2026年1月15日	～	2026年2月14日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	30	（回答者数）	23
○従業者評価実施期間	2026年　2月　16日	～	2026年　2月　28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年　3月　11日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤、非常勤問わず普段から意見を交換し、子どもの抱えている問題点や必要な支援に対してスピーディーに対応を心がけている。それに対しての利用者からも評価の声がある。	定期的なミーティングだけではなく、常日頃の職員同士の会話も含めて、子供の情報や状況等を共有している。	さまざまな研修や勉強会などの機会を存分に利用し、スタッフの知識や技術のスキルアップをはかることで、より多くの問題に対応できるよう取り組みたい。
2	利用者および家族とのコミュニケーションを積極的とることで、施設の理念や支援方法を理解していただいている。	電話やシステム（HUG等）などの連絡方法を使い、些細なことでも保護者を含む関係者と連携をとることで、利用者の悩み事や困りごとをいち早く把握し、問題点を緩和・軽減・解決できるよう取り組んでいる。	プライバシー保護についてはこれまで以上に注意しながら、さまざまな現状や情報を共有し、自分たち施設ができる範囲で最善の対応ができるように努める。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域やほかの福祉施設との繋がりが弱い。相談支援事業所等との連絡は常にしているものの、地域の住民等を含めた連携は多くとれていない。	地域とのつながりに関しては、近隣に小学校があるものの、住宅地が少なく商業地が多いという立地も一因として考えられる。また児童が以前に通所していた施設等も、普段の支援の中での必要性が少なかったため、軽視していた部分があるのかもしれない。	自分たちの施設のことを知ってもらうため、積極的な対外アピールをしていく重要性を感じている。まずは学校や児童館など、地域に密着した施設との連携ができるような取り組みを考える。ほか福祉施設との連携については、自身の施設の支援力向上のために必要なことを確認し、連携の方法について模索していきたい。
2	活動プログラムにおいて、一部の保護者から「マンネリ化があるのでは」との声がある。	通常時や土・祝・長期休み等の支援を行う中、人員の配置や運営の効率化といった観点から、最近は活動プログラムを見直している。その際に固定化したプログラム（フットサル、トランポリン、ストレッチ・軽体操、野球教室等）の曜日指定のほか、お出かけイベントに減少傾向があることから、保護者からの懸念の声があるのではと考えている。	施設の意図や目的、支援についてをできるだけアピールし、保護者と支援方法について共有をすることで活動プログラムの趣旨を理解していただき、今後のより良い支援につなげていければと考えている。
3			